多文化共生事業事例集

年度
R3

団体名	(公財)京都市国際交流協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業費総額　876 千円	ジャンル	C 教育・子ども

事業名

多文化子育て支援 スタートアッププロジェクト

概　要

外国籍市民の保護者と子どもの居場所づくりや、
外国籍市民の保護者同士のネットワークの形成を行った。

事業のポイント

◇外国籍保護者が参加者から活動者にもなれるネットワークの形成を目的としたため、外国籍保護者の集まりである「ＴＡＢＵＮＫＯ」が主体となって活動を企画・実施することを重視し、協会は、団体の定期的な活動の後方支援（広報、場所の提供、つながりづくり）に徹した。
◇言語や文化に多様性のある家族（外国につながる家族）に関連するセミナーを実施し、外国籍市民に必要な情報を届けることを目指した。

事業の背景・目的

◇子育てをテーマとした活動で、日本人が在住外国人をサポートする取り組みはあったが、当事者による活動立ち上げに関わるケースはなかった。
２０１９年度の本助成事業で実施した「子育て応援プロジェクト」で当事者として社会に参画したいという外国籍市民と出会うことができ、そこを発端に当事者である外国籍保護者が継続的な活動を立ち上げるための土台づくりが必要だと考え、本事業を実施した。

事業の詳細

１．保護者と子どもの居場所づくり（全５回）
多文化ストーリータイム＆手遊びイベント/コーヒートークの実施
kokoka 京都市国際交流会館を拠点に、各種イベントを実施した。
①多文化ストーリータイム＆手遊びイベント（６～１２月、全４回）
内容：外国籍保護者による多言語での子供絵本の読み聞かせと手遊び
対象：３歳～６歳の幼児及び保護者（年齢対象外の兄弟姉妹参加可能）
言語：日本語、英語、ペルシャ語、ドイツ語、インドネシア語、ヘブライ語等
② コーヒートーク（７/１８）
内容：子連れで参加できる保護者のための情報共有や意見交換
対象：３歳～６歳の幼児及び保護者（年齢対象外の兄弟姉妹参加可能）
言語：日本語及び英語
２．保護者のネットワークづくり（全３回）
母語継承、子育ての悩み等について、保護者同士が共有し経験交流ができるワークショップや講座を実施した。
①TABUNKO with きょうと多文化支援ネットワーク
多文化子育て座談会「Meet, Greet & Share」（１０/３）
内容：参加者同士で子育ての困りごとなどを自由に話して共有した。
②保育セミナー（１０/１５）
内容：京都市の関連部局から講師を招き、京都市の保育制度について、英語・中国語の通訳を交えて説明した。
③バイリンガル教育・多文化家族・母語の大切さ 特別講習会（１/２３）
内容：家庭内のバイリンガル教育の有用性についてセミナーを実施した。
３．外国籍市民の声を社会に届ける取り組みの実施（全１回）
京都市の保健師研修への参加

写真①多文化ストーリータイム＆手遊びイベント

写真②多文化ストーリータイム＆手遊びイベント

事業実施における工夫点・事業の成果等

●事業の工夫点

「ＴＡＢＵＮＫＯ」が中心となって継続的に活動することで、活きたネットワークの形成を目指した。また、読み聞かせイベントでは、自分の子どもと一緒に読み聞かせにチャレンジしたメンバーもいて、文化や言葉の継承にもつながった。

保護者のネットワークづくりのワークショップでは、子ども連れで参加できるように「子ども見守りスペース」を併設し、大学で幼児教育や多文化共生について学ぶ学生にスタッフとして参加してもらった。また、以前作成した「多文化子育てハンドブック」を各イベントで配布することで、京都で生活し、子育てするうえで必要な情報を届けた。

写真③多文化子育て座談会

●事業の成果

①外国籍市民の保護者と子どもの居場所づくり

外国籍保護者が自ら企画し、対面とオンラインで交流イベントを計５回行い、大人・子供含め延べ 105 名が参加した。

②外国籍市民の保護者同士のネットワークづくり

外国籍保護者同士が子育て等の悩みを相談できるワークショップ・講座を計３回実施し、大人・子供含め延べ 50 名が参加した。

③外国籍市民の声を社会に届ける取り組みの実施

保健師研修の場で、ＴＡＢＵＮＫＯ代表がスピーカーとして参加した。 言語の翻訳だけではなく、保護者に寄り添う保健師の姿勢が大切であること、日本語非母語話者に対する話し方への工夫など、円滑なコミュニケーションにつなげるための保健師の姿勢や意識のあり方などを当事者の視点から語ってもらった。

今後の課題・（コロナ禍の状況を踏まえた）将来に向けての展望等

新型コロナ感染症の影響で、当会館の利用やイベント参加に様々な影響が出ている現状を見て、「場」があってはじめて人のつながりが生まれることを改めて痛感している。

子育ての課題は親の課題でもあり社会全体の課題である。その中でも、外国につながる人たちの課題は、ともすれば全体の中に埋もれてしまう。様々な問題や課題が「場」を通して見えてくることにより、「場」を共有する人々によって必要な支援につなげることが可能になるのではないだろうか。

今後も、kokoka 京都市国際交流会館という場を活用して、子育て中の人がつながるきっかけを作り、その中で必要な支援につなげたい。今回の助成により１年間活動したことをベースに、ＴＡＢＵＮＫＯの活動の今後につなげることができたことに感謝している。

●将来に向けての展望

TABUNKO の活動継続を支援するためにも、助成金の申請は重要となる。申請窓口として当協会の人員配置やイベント実施時に人員確保の手段や、広報活動についてさらに工夫をすれば、当該団体の継続的な活動は大いに期待できるであろう。

写真④多文化ストーリータイム＆手遊びイベント

事業担当者のふりかえり

・今までは当協会主催の場合が多かったが、当事者（外国籍市民）が主体で事業を行ったのは初めて試みであった。

・広報では、当協会と主催の TABUNKO 様が協働の形で、Facebook・LINE 等を駆使して少しずつ輪を広められた。令和４年度も当該団体が引き続き当施設を利用し、かなりのリピーターが来てくれている。

・課題として、当該団体が主体的に実施をしているが、大きいイベント時に当協会からかなりの人手が必要となり、大変であった。